

第77 回町田市環境審議会 議事要旨

【日時】2021 年1 月 19 日（火）18：30－20：30

【場所】Web会議

【出席者】

委員：堂前委員（会長）鳴海委員（職務代理）根本委員、藤倉委員、仁部委員、野村委員、宮下委員、大谷委員、木村委員、瀬田委員、渡邊委員

事務局：環境資源部 荻原、環境政策課 宮坂、川瀬、土志田、井上、西、藤森、
環境・自然共生課 藤原、大西、粕谷

傍聴：なし

【欠席者】

委員：佐藤委員

【資料】

資料1：骨子案（第3次町田市環境マスタープラン）

資料2：施策・目標の体系（案）（第3次町田市環境マスタープラン）

資料3-1：「望ましい環境像」の絞り込みについて

資料3-2：「望ましい環境像」投票用紙

参考資料1：策定スケジュール

参考資料2：施策体系図（第二次町田市環境マスタープラン）

【開会・諮問】

- 石阪市長より、諮問文の読み上げを行った。

【報告】

策定スケジュールについて（参考資料1）

- 事務局より、参考資料1について説明を行った。

【議題】

「第3次町田市環境マスタープラン」骨子案について

（1）「骨子案」の概要について（資料1）

- 事務局より、資料1について説明を行った。

藤倉委員：地球環境はオゾン層や酸性雨等も含むため、気候変動がよい。また、「廃棄物環境」は一般的に用いられる用語ではないため、「資源循環」に置き換えたほうがよいのではないか。定義等は全体的に整えた方がよい。

基本目標について、それぞれの目標に用いられている用語が、「対策」であったり「社会の構築」であったりしてレベル感が違うと感じるので、言葉の使い方を見直してほしい。特に、「持続可能な」という言葉は環境全体に関連する言葉であるため、

個別の基本目標に使用されているのには違和感がある。

鳴海委員：都市環境というと市街地の環境をイメージするので、要素と対応した言葉のほうがよいのではないか。

事務局：ご意見を踏まえて文言の見直しを行う。

(2) 「基本目標、施策の基本テーマ」について (資料2、参考資料2)

- 事務局より、資料2について説明を行った。

基本目標1 (仮) 地球温暖化の防止

藤倉委員：施策の基本テーマの順序について、今のままだもよいが、基本的な考え方は、まずCO₂を出さないエネルギーを使い、次に消費エネルギーを削減するという順になると思う。

施策の基本テーマ①では、「スマート」なエネルギー利用に省エネルギーを含めていると思うが、スマートは賢いという意味であるので、市民への伝わりやすさを考慮した方がよい。

事務局：ご意見を踏まえて、検討する。

渡邊委員：現在示しているような体系で施策を丁寧に伝えていくのは町田らしくてよいと思う。施策の基本テーマ②では、いつまでということは入れなくても「再生可能エネルギー100%に向けたまちづくりを進めます」というような、再生可能エネルギー導入の具体的な目標を含めた表現にするとよいのではないか。

鳴海委員：基本テーマ②に市内外と記載しているのはなぜか。また、基本目標に気候変動にも対応できるとあえて記載しているのはなぜか。

事務局：テーマ②は市外からの調達を意識して記載しているが、記載方法は検討する。基本目標の表現は検討する。

根本委員：地球温暖化対策はまずは省エネルギーを徹底することを優先するべきだと考えているので、今の基本テーマの順序のままでよいと思う。施策の基本テーマでは、省エネルギーを徹底することがわかるように表現を見直してもよいのではないか。

大谷委員：SDGsのターゲットを基本目標と紐づけて示しているのはよいことである。計画冊子では、SDGsのターゲット等も見やすさも検討してほしい。

堂前会長：SDGsの各ターゲットの凡例があってもよい。

根本委員：基本目標1の指標について、二酸化炭素排出量は推計の結果であるため、施策を実施しても推計結果に反映されなかったことが現行計画の課題であったと感じている。推計方法の都合により難しいかもしれないが、次期計画では施策が結果に反映される、検証可能な目標を検討してほしい。

事務局：市民に伝わりやすい指標となるように検討する。温室効果ガスについては、仕組み上、町田市だけで算定できるものではないので、課題として残ることが考えられる。

基本目標2 (仮) 自然・歴史的環境と生物多様性の保全

瀬田委員：水辺づくりを施策の基本テーマの最初に持ってくるほうがよいのではないかと。

事務局：次期計画では、生物多様性地域戦略を基本目標2に位置付けているので、生物多様性に主に関わるテーマを最初に持ってきており、町田市の特徴を考慮してみどり、水の順番にしている

仁部委員：施策の基本テーマ①と②で有効利用と記載があるが、何を有効利用するのかがわからない。

事務局：基本目標が固まった段階で、わかりやすい表現に見直す。利用だけでなく、活用していくことを考えている。

藤倉委員：生きものの有効利用とは例えばどういったことをイメージしているのか。施策を含めて検討してほしい。

事務局：緑等を有効利用することを考えている。

鳴海委員：施策の基本テーマ④は自然環境分野としてみると浮いている気がするのですが、基本目標4に含めてもよいのではないかと。

SDGs14のターゲットは町田市に係るのか。他の目標も含めてSDGsのターゲットとの紐づけを見直したほうがよい。

事務局：町田市の特徴として、自然と歴史が密接に結びついていることが挙げられるため、基本目標2で歴史・文化を取り扱っている。

SDGsは施策等が決まった段階で、どのターゲットが紐づくのかももう一度検討する予定である。

堂前会長：谷戸は町田市の特徴なので、施策の基本テーマの中に表現したほうがよいのではないかと。全体的な言葉の据わりもあると思うが、検討してもらいたい。

事務局：ご意見を踏まえて、表現は検討する。

基本目標4 (仮) 良好な生活環境の維持・保全

木村委員：基本目標4の目標は保全となっているが、町田市では宅地の細分化が進み、住環境が変化しているため、改善のほうがよいのではないかと。

施策の基本テーマ①はどういった環境を実現するのかイメージがしづらい。

施策の基本テーマ②の美しいまち並みというのは、景観的な要素のことを指すのか。まち並みをつくる市民の行動についても考えてほしい。

事務局：ご意見を踏まえて検討する。

藤倉委員：まち並みを考えるにあたって、まちづくりや都市計画等に関わるが、どこまで考える予定なのか。まちづくりは地球温暖化対策にも関わってくるが、都市計画系の部署とどこまで協力していくのか。

事務局：まちづくりは景観のことや自転車レーンの整備のこと等、生活環境に係る部分を考えることになる。引き続き、都市づくりの計画とも整合を図り策定していく。

鳴海委員：美しいまち並みはどのように評価するのか。指標例で示されている景観法に基づく届

け出数だと、開発の場合のみしか測れないのではないか。それ以外の景観についてはどのように考えるのか。

事務局：指標は今後検討する。

大谷委員：まちづくりについて、市民が参加できる方法として、ブロック塀から生垣へと転換することを実施していくと聞いた覚えがあるが、実施する予定なのか。

事務局：計画の範囲には入りうるものである。

基本目標5 (仮) 市民・事業者・市の連携・協働の強化

木村委員：連携の対象として、市内の連携方法は考えないのか。

事務局：ご意見を踏まえて検討する。

堂前会長：生涯学習等の学びを活かせる場のようなものがあればよい。

(3) 「望ましい環境像」の絞り込みについて(資料3-1、資料3-2)

事務局より、資料3-1、資料3-2について説明を行った。

野村委員：環境像は市民がイメージしやすく伝わりやすいように簡素にしてもよいのではないかと。例えば、環境像案11について「持続可能な」という文言を消すのはいかがか。

事務局：環境像なので、(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040のキャッチコピーのような伝わりやすさのみを重視するだけではないということを考えている。具体的な案があれば、この場でいただきたい。

野村委員：環境像案11は「持続可能な」という文言を削除してもよいか。

一同：異議なし。

事務局：環境像案1について「未来の世代へつなぐ」という文言でよいか。

一同：異議なし。

- 事務局から、資料2に関する追加意見の提出方法、「望ましい環境像」の投票方法、今後のスケジュールについて説明を行った。